

「外反母趾」で歩けなかった女性がB級戦で優勝!

ダンスをやっていなければ今ごろ寝たきりになっていたでしょうね、きっと」という三觜圭子さん(50歳)は、リウマチによる外反母趾で歩くことが困難になり、一時は大好きなディズニーランドへも「主人に車イスを押してもらって出かけた」というほどひどい状態だった。

彼女がダンスを始めたのは2006年の夏ごろ。もともと競技ダンス経験のあったご主人の政次さんに勧められたのがきっかけだ。6カ月の練習のあと、ラテン1級、スタンダードD級からスタートし、その後スタンダードC級に昇級したものの、そのころから足に激痛を覚えるようになり、ついに踊れなくなってしまった。

そのとき出会ったのが、外反母趾専用ダンスシューズメーカー、「ジュリエット」の島田傳一社長だ。

「私の足は、正確には外反母趾、小指内反足、バネ指(リウマチによる関節の変形で足裏に骨が突き出ている)という病気で、手で言うと人差し指にあたる指が上に出て、親指に重なっている状態でした。それも左足だけで、左右の足が違う状態で、足裏で踏ん張るととにかく痛い。島田社長やジュリエットの職人さんにも、ダンスをやめたらどうか?と問われたんです」(三觜さん)

痛いところが圧迫されないようなワクを設けた特注シューズを作ってもらった三觜さんは、ダンスを再開、その後は政次さんとともに大活躍、昨年11月に行われた長野県ダンススポーツ大会ではついにアマB級スタンダード戦で優勝するという快挙を成し遂げた。

「今は家族や仲間に支えられて、楽しく元気に踊れることに感謝しています。とりわけ、大船の松竹ダンスプラザの三津田賢先



三觜圭子さんと政次さん

生と、ジュリエットの皆さん、そして主人には、言葉では表せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです」(三觜さん)

政次さんは、「最初はリハビリになれば、と思って社交ダンスを勧めたんですが、やっているうちに競技でトロフィーを取らせてやりたい、B級を取らせてやりたい、と次々に欲も出てきて(笑)。ここまで来たらもっと欲を出しちゃおうかな」と笑う。A級も夢ではなさそうだ。